

風物詩

豊臣秀吉の茶会に由来する「黒井の清水」大茶会

三島地区は、「灘五郷」や「伏見」に対し、「摂津」の銘酒といわれてきたように、古くから水に恵まれた地であり、多くの造り酒屋がありました。

茨木には、かつて、5つの名水があったといわれており、それぞれに赤・白・青・黄・黒と色にちなんだ名前がつけられていました。

今回ご紹介するのは、茨木城内にありました「黒井の清水」です。



茨木城は、江戸時代に一国一城令により廃城となり、現在は、茨木神社の境内となっています。

さて、黒井の清水大茶会の起こりは、山崎の合戦で明智光秀を倒し、天下を取った豊臣秀吉が茨木へ鷹狩りに訪れた際に、この井戸水で点てたお茶を飲んだところ、大変気に入ったことから、その後に大坂城で茶会を開くときには、わざわざ茨木からこの水を運ばせ茶の湯として使ったという逸話からです。

平成12年10月に、約400年前のいにしえを偲び、茨木の文化・産業を見直し、商店街の活性化を図るため、この逸話にちなみ、茨木神社の境内で茶会を開催しました。

その後、茨木市観光協会の設立に伴い、茶会の開催も引き継がれ、毎年秋、土・日曜日の2日間にわたり開催されており、今年で10回目を迎えます。

この黒井の井戸は、今では枯れているため、同じ



地下水脈である近くの造り酒屋の井戸水を使って野点を行うとともに、カフェや地元の物産の販売、コンサートもあり、多くの市民に親しまれています。

今年は、10月3日（土）、4日（日）の2日間、茨木神社の境内で開催します。

遠い時代に想いを巡らせ、黒井の清水に由来する創作和菓子で一服されませんか。

お越しをお待ちいたしております。



● お問い合わせ先 ●

茨木市産業環境部商工労政課

TEL : 072-620-1620

FAX : 072-627-0289